

表-1 旧・木江工業高校造船科 年譜

旧木江工業高校造船科 (現：大崎海星高校) 及び関係年譜	和暦	西暦	教育・高校造船科 及び社会動向
	M18	1885	M18/10)汽船会社「日本郵船会社」創業：資本金1,100万円、所有汽船58隻。
	M19	1886	帝国大学令、小学校令発布
	M20	1887	500石以上の木造船の建造禁止令発布。
	M22	1894	M22/2/1)大日本帝国憲法発布。
	M27	1894	M27/7/25)徒弟学校規程制定(文部省令) M27/8/1)日清戦争勃発 M28/4 講和
	M29	1896	M29/5/22)日本最初の高校造船教育の学校：「大康工業補修学校」が創設。後の「三重県立伊勢工業高等学校」。
M31/5/10) 組合立芸陽海員学校が創立；後の国立広島商船高等～近隣13町村の学校組合による丙種船長養成学校。]	M31	1898	
	M32	1899	M32/2/7)実業学校令(勅令)発布。 M32/4/1)「大康工業補修学校」は「大康造船徒弟学校」と改称：木工科・金工科を設置。
	M35	1902	M35/4/1)「大康造船徒弟学校」は「大康町立造船徒弟学校」と改称。
	M37	1904	M37/2/10)日露戦争勃発 M38/9 講和
	M40	1908	M40/4)徒弟学校規定による「松江市立工業学校修道館」を設置。金工部(鍛工・鑄工・仕上工科)、木工部(大工・指物科) 後の「島根県立松江工業高等学校」。
	M41	1909	M41/4)「松江市立工業学校修道館」は県立移管「島根県立工業学校修道館」と改称。
	M43	1910	M43/3)「下関市立実業補修学校」発足。 後の「山口県立下関中央工業高等学校」。
	T3	1914	T3/7/28)第1次世界大戦勃発。日本は8/23参戦。
	T7	1918	T7/11/11)第1次世界大戦終戦。 川崎芳太郎が私立川崎商船学校を開校
T8/6/13) 徒弟学校規定により木江町に「広島県豊田郡立造船徒弟学校」の設立認可。 入学資格：尋常小学校高等科第二学年卒業。修業年限：二カ年。 T8/6/29)第1期生(30名)入学式を当時の宮崎小学校を借用して挙行。 授業校舎は当時の木江警察署2階を借用。	T8	1919	造船好景気に沸く 川崎造船所日本初の8時間労働制を導入
T9/1/18) 校名を豊田郡立木江造船工手学校と改称し4月1日より工業学校規定による T9/4/10)木江町宮崎小学校の払い下げをうけて校舎移転。 T10/3/23)第1期生18名卒業式挙行。	T9	1920	
	T10	1921	
旧木江工業高校造船科 (現：大崎海星高校) 及び関係年譜	和暦	西暦	教育・高校造船科 及び社会動向
T12/4/1) 広島県に移管され、校名を広島県立商船学校分校木江造船工手学校と改称。 S4/4/1)製図科と木工科を設置。	T12	1923	T12/9/1)関東大震災発生
	S4	1929	世界大恐慌
	S6	1931	嵐州事変発生
S9/3/6)入学資格を尋常高等小学校高等科第二学年卒業・修業年限3カ年とし、製図科、木工科に代って航空機分科と造船分科の設置、同時に甲種工業学校に昇格。校名を広島県立木江造船学校と改称し同年4月1日より実施。	S9	1934	
	S12	1937	S12/7/7)日中戦争勃発
S16/2/20)造船分科と航空機分科を独立させ、造船科と航空機科の二科を設置、各料定員50名の計100名。	S16	1941	S16/12/8)太平洋戦争勃発
S18/7/16)校名を広島県立木江工業学校と改称。	S18	1943	
S19/4/7) 学徒勤労動員開始：造船科・日立造船(株)因島工場へ、航空機科 第11 海軍航空廠へ。	S19	1944	
S20/4/1) 受験資格を国民学校令に基づき国民学校初等科卒に変更し修業年限を5カ年とする。 S20/10/1)航空機科を機械科に変更し、同科生徒は機械科に転科。	S20	1945	S20/8/15)太平洋戦争、日本の敗戦で終戦
S22/4/1) 新学校制度：6・3・3・4制の施行。広島県立木江工業学校に新制中学を併設、在学を同校に収容。	S22	1947	
S23/5/8) 学制改革(広島県告示第215号)により高等学校に昇格し、広島県立木江工業高等学校と称し造船科、機械科の他に新制中学校を併設。 S23/9/1) 中野村立芸陽高等学校の県移管実施し広島県立木江工業学校に吸収して広島県立甲陽高等学校と改称。全日課程として普通科、生活科、造船科、機械科、及び定時制課程を設置し男女共学実施。	S23	1948	S23/1/27)「高等学校設置基準」制定。 S23/4)「高等学校設置基準」により旧制の工業学校は工業高等学校となる。
S24/4/1) 学区制実施により竹原高等学校造船科生徒(22名)を本校造船科3年に転入。同時に本校機械科は竹原高等学校へ。 S24/4/30) 広島県下高等学校再編成により甲陽高等学校を母体とし、総合制広島県大崎高等学校の設立、造船科は木江校舎、普通科、定時制普通科は大崎校舎へ。 木江校舎住所：広島県豊田郡木江町乙141番地 S24/7) 夏季工場実習開始：日立造船＝向島、因島、板島の各工場、三菱造船＝広島造船所。	S24	1949	
	S26	1951	S26/6/11)「産業教育振興法」施行。
S28/4/14)広島県皆実高等学校の造船科を吸収し造船科学区は全県一区。造船料定員80名。	S26	1953	
	S28		
S29/5/1)大阪大学教授徳島秀雄先生来校。 講演「船舶の抵抗と水槽試験について」	S29	1954	
旧木江工業高校造船科 (現：大崎海星高校) 及び関係年譜	和暦	西暦	教育・高校造船科 及び社会動向
S31/1/16)校舎を木江町野賀地区へ移転。住所：広島県豊田郡木江町字沖浦1980番地の1	S31	1956	この年、日本の新造船進水量世界一となる
S33/4/7)開校以来初の女生徒7名入学。	S33	1958	
S34/3/1)卒業生数：造船科：72名	S34	1959	S34/8/21)中国五県工業教育研究会開催に参加：於山口県立宇部工業高校。 本集会で「全国工業高等学校造船教育研究会」の発足が協議・承認。参加校13校： 大崎高、松江工高、備南高、下関幡生工高、因島高、新南工高、横須賀工高、伊勢工高、市立神戸工高、相生産業高、須崎工高、佐伯高、長崎工高。
	S34	1959	S34/11/3)「全国工業高等学校造船教育研究会」発足。加盟校：17校。小樽千秋高、釜石工高、横須賀工高、伊勢工高、市立神戸工高、相生産業高、備南高、徳島東工高、須崎工高、松江工高、尾道高、因島北高、木江工高、下関中央工高、佐伯高、長崎工高、豊浦高。
S38/4/1)機械科一学級(定員50名)を新設。	S38	1963	
	S39	1964	S39/10)IH 横浜26万トンドック稼働開始
S40/3/1)卒業生数：造船科：86名	S40	1965	S40/6)三菱長崎香焼30万トンドック稼働開始
S42/3/1)卒業生数：造船科：74名 + 機械科：46名	S42	1967	S42/4)川重坂出35万トンドック稼働開始
広島県立大崎高等学校の工業科を分離独立させて広島県立木江工業高等学校となる。住所：広島県豊田郡木江町1980番地の1 S44/6/8) 創立50周年記念式典、並びに校舎落成式を挙行。	S44	1969	
S48/3/1)卒業生数：造船科：60名 + 機械科：70名	S48	1973	第1次石油ショック、世界経済一気に減速
S53/11/26) 創立60周年記念式典を挙行。創立60周年記念誌「広島県立木江工業高等学校 六十年のあゆみ」発刊。	S53	1978	造船能力35%削減
S63/11/6)創立70周年記念式典を挙行。	S63	1988	第2次造船能力削減
H8/4/1)機械科・造船科2学科1学級(定員40名)となり、<くり募集を実施。	H8	1996	
H9/3)：木江工業高校最後の卒業： 卒業生数：造船科 4名。 機械科 16名	H9	1997	H9/7/10)「全国工業高等学校造船教育研究会」加盟校：6校。 1)伊勢工業高校 2)神戸工業高校 3)須崎工業高校 4)木江工業高校 5)下関中央工業高校 6)長崎工業高校
	H10	1998	
H10/4/1) 大崎高等学校・木江工業高等学校を統合し、新校名を 広島県立大崎海星高等学校 と定める。造船科、機械科を募集停止し、総合学科を設置。			
旧木江工業高校造船科(現：大崎海星高校) 及び関係年譜	和暦	西暦	教育・高校造船科 及び社会動向
	H17	2006	H17/4/1)「三重県立伊勢工業高校」の造船科廃止：H16. 3に造船科生徒最後の卒業、100年の歴史に幕。
	H18	2006	H18/3/31)「長崎県立長崎工業高校」の造船科廃止：機械科システム科(造船コース、電子機械コース)として継続。
	H21	2009	H21/3/2)「徳島県立東工業高校」は開校式挙行。
H22/7/4/1)：予定 広島県立大崎海星高等学校は総合学科を廃止し、普通科1学級40名を設置(工業課程は全廃)	H22	2010	